

いもせ 妹背の松

県指定天然記念物

南陽市宮内の熊野神社東側にこんもりとした丘になっている双松公園そうしょうがあります。その北側の菖蒲沢しょうぶざわの細い道を200mほど緩やかに上がり、2つ目の角を右手山の方に約80m登ったところに抱き合ったような形の2本のアカマツを見ることができます。このアカマツは樹齢300年以上とも言われるすばらしい名木で、昭和31年11月24日に県の天然記念物に指定されました。

そのアカマツは2本が並立していますが、約4mの高さの所で横に橋渡しのように連結しています。植物学的には連理という珍しい現象です。根本は一樹のように結合し、全景は男女相生あいおいの形に見られるところから「妹背の松」（妹背とは「夫婦」の意味）と名付けられ、また、その姿から「相生の松」とも呼ばれてきました。松の姿を見ると、どうしてこのような姿になったのか自然の妙とはいえ奇異にさえ思われます。

2本の木が連結した原因を推測してみると、2本の松は幼木の時からとても接近して育ったため、生長しているうちに密着し、その部分は外皮が形成されないまま組織が結合したものと思われます。その後、地上4m程の所で、どちらか1本の幹から枝が出て片方の幹に突き刺さるような形で合体したためにその部分は押され、横に橋渡しになるように分かれたのではないかと思います。

今では連結部の上方は一方が直立するように15mの高さに、もう1本は高さ9.5mあたりで垂れ下がるように伸び、枝張りは約10m四方に見事に生長しています。

このような木が樹齢300年以上とも言われるほど見事に生育するまでには、昔からずっと地域の方々から大切に守られてきたのでしょう。現在でも、松の害虫防除や施肥、時には松枯れ防止の薬剤樹幹注入などの管理はもちろんのこと、周囲の除草や整備等、地域の多くの方々から温かい努力によって大切に保護されています。



▲寄り添うように並立する2本のアカマツ

周囲の除草や整備等、地域の多くの方々から温かい努力によって大切に保護されています。

南陽市のすばらしい文化財「妹背の松」のこれからの生育を見守り、合わせて双松公園の整備されたバラや桜、一帯の雑木林の四季折々美しさなどずっと楽しんでいきたいものです。

南陽市文化財保護審議委員 山口吉子
平成25年12月1日号 市報なんよう掲載